令和８年度 全国学力学習状況調査からわかる

本校の傾向と課題について

羽曳野市立 恵我之荘小学校

【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

【国語】

・「文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く」問題に関して、正答率が高く、全国平均を上回った。授業の中で、自分の考えをわかりやすく表現する機会を増やしたり、学年に応じて、自分の体験や思いを言葉に表現したりして書く機会を意図的に設けたりしていることが関係していると考える。今後も自分の考えや振り返りを書くことを重視した授業展開をし、考える力を伸ばしていく。

・思考・判断・表現の「話すこと・聞くこと」に課題が見られた。自分の考えを筋道立ててまとめる力や、相手の意図を正確に聞き取る力に課題がある。自分の意見や根拠（理由・事例）を明確に持って話すことや、何が大切（中心）なのかを意識し、要点をつかみながら聞く力を高めることが重要である。話を聞く前に、「話し手が一番伝えたい『結論』は何か」「理由はいくつあるか」など、聞き取るべきゴールをあらかじめ指定して聞くことが重要である。

・「選択式」の問題に比べ、「記述式」の問題の正答率が高く、全国平均を上回った。また全体として無解答率が低く、わからない問題や難しい記述式の問題であっても、諦めずに「何かを表現しよう」とする前向きな学習意欲が見られた。自分の考えを何とか言葉にしようとする粘り強い思考力や態度が身についてきている。今後も日常の授業の中で、自分の意見を書いたり、友達に説明したりするアウトプットの活動（言語活動）を継続的・計画的に行なっていくことが重要であると考えている。

【算数】

・「二つの小数のどちらが5に近いかを判断するために、6.37−5と5−3.76を計算する」問題の正答率が全国平均を上回った。四則計算の計算力の向上を目的とした朝マス計算に取り組んだり、学期１回の計算テストや３年生以上はCBT【Computer Based Testing】の実施をしたりするなど、計算の基礎基本の定着をめざしてきたからだと考える。

・「知識・技能」と比較して「思考・判断・表現」を問われる問題で正答率が高く、全国平均を上回った。本校では例年、どちらかといえば「思考・判断・表現」の問題に関して課題が見られていたが、今年度は成果が見られた。教科の枠を超え、思考する時間をしっかりと確保し、振り返りを重視した学習を続けてきた結果であると考える。

・「図形」に関する問題において、課題が見られた。立方体の体積の計算による求め方や、直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる問題に関して、正答率が全国平均を下回った。日々の授業で、条件の読み落としをせずに、空間を認識する力をつけていくことが重要である。ICT を活用するとともに、考えの交流を充実させることも大切にしていく。

【児童質問紙と各教科から】

・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」という項目のあてはまると答えた割合は、全国平均に対し、10ポイント以上高かった。また「将来の夢をもっている」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」などの項目でも、全国平均に対して顕著に高い値となっている。教職員だけでなく地域全体で、児童一人ひとりの変化を見落とすことなく、自己肯定感を高める声かけを授業や生活、いろいろな場面で積極的にしていこうと取り組んでいる結果だと言える。

・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という項目では、当てはまると答えた割合は、全国平均に対して、10ポイント以上高かった。これは「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」という項目で全国平均より顕著に高い値を示しているとおり、授業で自分の考えをまとめ、「振り返り」を重視してきた成果であると考える。全教科において、考える時間を確保し、自己解決から協働的に練り上げをすることを大切にしていく。

・「昼休みや放課後に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館にどれくらい行きますか」という項目で頻繁に行くと答えた児童が全国平均より大幅に上回った。本校では図書館司書がおり、朝の読書タイム、家読週間、読書ノート、辞書引き大会など、多くの読書を推奨する取組みを行っている成果である。成果は、一日あたりまったく本を読まない児童の割合が低いことでもわかる。今後も、図書担当教員や図書館司書を中心に、児童が読書を好きになるような取組みを続けていく。

・「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか。」という項目で、30分未満の割合が、全国と比べると高かった。また「1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等で SNS や動画視聴などをしますか」という項目でも、顕著に長い時間を費やしていることがわかる。児童が家庭学習に進んで取り組めるよう、わかる授業に取り組み学習意欲を高めることと、家庭への啓発（自主学習の手引き）を継続していく。

【クロス集計分析より】
クロス集計とは、教科の調査問題結果と生徒質問紙・学校質問紙の調査結果の相関関係を見た集計のことである。「児童の生活などに〇〇のような傾向があれば、平均正答率が高い傾向がある」「学校が〇〇という取組みを行っていれば、平均正答率が高い傾向がある」といった相関関係を調べたものである。

学校における指導や児童の意識と学力との関係
次の指導を行った、もしくは児童が次のような意識をもっている場合、教科の平均正答率が高い傾向がある。
・将来の夢や目標を持っていますか
・学校に行くのは楽しいと思いますか
・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか
・自分には、よいところがあると思いますか
・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか
・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
・各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
・目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか

本校では、違いを認め合い、高め合うことができるように、日々教職員がチームとなって児童の指導・支援をしている。「学校に行くことが楽しい」と思えることを一番に、児童一人ひとりの良さを認めることを大切にしている。結果、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目では、例年、全国平均より大幅に高い結果となっており、それは今年度も結果として表れている。引き続き、児童の自尊心を高め、人権を尊重した教育を続けていく。
また、以前より授業改善に取組んでいるが、他の意見や考えのよさに気づき、個々の輝く集団づくりをしていくことや、児童の達成感や成就感を高められるように、今後も授業研究を続けていく。

【児童の主体的な学びを推進するために】
令和8年度の研究テーマは「自分の考えを深め、表現する力の育成～対話とふり返りを通して～」としている。羽曳野市全体でつけたい力が「自分の考えをわかりやすく伝わるように表現する力」であることから、表現力を重点的につけることを目標とする。また、自分の気持ちや考えをもって人と対話することで自分の考えを深めてほしいと考える。そして授業の最後にふり返りをする時には、「～さんの意見に私は賛成だと思った。理由は～」や「～さんはこう思ったけど、自分はこう思った。なぜなら～」など、自分の気持ちが動いたことを書くことに重点を置いてはどうかと考える。授業で理解したことをふり返りに書くことも多いと考えられるが、「今日の学び」で自分の気持ちが何で動いたかを書くことで、メタ認知（自己省察）をし、自分が授業中に感じとった気持ちや考えを大切にしてほしいと考える。